

コラム COLUMN

京都運転ボランティア友の会 石原会長に聴く



語り手

NPO法人 京都運転ボランティア友の会
会長：石原宏武 氏

誰もが地域で安心して暮らし続けるために

- 石原会長は長きにわたり、年間約700件の障害者や高齢者の送迎事業に加え、京都府内外で多数講演や普及活動に取り組まれている。
- 「通院や地域の集いの場等に移動手段として車が必要なことが多く、車がないと閉じこもりや要介護状態に陥りやすい。住民同士で近所への外出を助け合わないといけない。とりあえず実行に移すことが大切です。」
- 「ドア・トゥ・ドアや目的地で降車する等、個人のニーズに対応することで暮らしを支えてもらっている住民主体の移動支援は、日常生活に必要な外出に欠かせないものとなっています。そのためには公的な支援はもちろん、地域支え合い活動創出コーディネーターが住民の声を聞き、新たな移動支援の取組を創ってもらうことを期待したいです。」と語っていただいた。



このリーフレットを手にとってくださった皆さまへ

いま、全国的にも買い物ができるお店が閉まったり、高齢となって免許を返納したけれども地域交通が不便である等、切実な声が増えています。

右京区ではこれまで、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指し、多様な活動主体が力を合わせて移動支援に取り組み、経験やノウハウを積んできました。

右京区社会福祉協議会に配置している地域支え合い活動創出コーディネーターは、皆さんにとって必要な情報を提供したり、応援する人・団体とつないだり、みんなで考える場づくりを進めています。お気軽にお問い合わせください。

1. 声をキャッチ!



2. みんなで話し合う場をつくる!



3. “あったらいいな”を実現!



発行

右京区地域支え合い活動創出コーディネーター※（社会福祉法人 京都市右京区社会福祉協議会）
〒616-8511 京都市右京区太秦下刑部町12 右京区総合庁舎5階

※京都市が、地域で高齢者を支えていくために必要な生活支援サービスの創出や担い手の養成、ネットワークの構築を目的として各区社会福祉協議会に配置しているコーディネーターです。

お問合せ

TEL : 075-865-8567 FAX : 075-865-8569
E-mail : info@ukyoku-syakyo.net

右京区で移動困難な 高齢者を支える

取組事例紹介リーフレット



社会福祉法人 京都市右京区社会福祉協議会
右京区地域支え合い活動創出コーディネーター

発行：令和7年3月

事例 1

支えあいボランティア チーム上弓削 マイカー送迎事業

語り手 チーム上弓削：古家代表・米津副代表・佐伯さん・
大前さん・寸田さん・石浦さん・市野さん



地域の高齢者の移動を自家用車で。～まずは身近な地域から始めてみよう～

- 右京区面積の約7割を占める広大な自然が広がる京北地域。バス停から自宅まで遠い高齢者も多く、近年では小売店やタクシー会社の廃業も。
- 「住民間で交通の仕組みづくりができないか。誰かがやるのを待っている、物事は進まない。検討するだけでなく、動かないと。」と上弓削地域に住む7名が自家用車を活用した送迎事業を令和6年7月に開始した。



いずれ自分たちも免許を返納したら利用できる仕組みが地域にあれば

- メンバーは日頃から右京区社協京北事務所の運転ボランティア等、京北の地域の担い手として活躍している。「いずれ運転できなくなった際に自分たちも利用できるようもっとひろがってほしい」と古家代表は語る。
- 「地域に移動販売が来ていたが、今はなくなって不便だった。自分で品物を選んで嬉しい。」と喜びの声が届いており、近所の方々と乗り合わせて定期的に利用される方も増えてきた。



事例 2

水尾社会福祉協議会・ 宕陰社会福祉協議会 × 愛宕ゆうこうの郷

語り手 水尾社会福祉協議会：松尾会長／宕陰社会福祉協議会：田中会長／
愛宕ゆうこうの郷：上田施設長



一緒に
出かけましょう!

車に乗らなくなった高齢者に向けて

- 右京区西北部、愛宕山の西麓に位置する水尾・宕陰地域では、車がなくなるとは暮らせないため、免許返納をした高齢者の外出と生活支援が課題である。
- 地域にただ一つある高齢者施設が送迎車を出して月に1度、スーパーへ買い物に向かう。「みんなで一緒に出掛けておしゃべりができる」と好評だ。



買い物は楽しい交流の機会にも

- 「お買い物は個配等それぞれでされている。でも話をするだけでも来てくれたら嬉しい。」と語る宕陰社協の田中会長。帰り道に寄ることが定番の喫茶店でのひと時も、交流の機会としても欠かせない時間だ。



地域にある施設として

- 愛宕ゆうこうの郷の上田施設長は「地域にある施設として頼ってもらい、買い物外出の時以外でも関わりを持てるようになれば」と語る。地域の高齢者の生活に欠かせない施設となっている。



事例 3

宇多野社会福祉協議会 × 嵐山寮うたの

語り手 宇多野社会福祉協議会：森奥会長／
嵐山寮特別養護老人ホームうたの：吉永施設長・塩内課長



近くて遠い坂の上へ～地域の取組へ高齢者も運ぶ～

- 嵐山寮特別養護老人ホームうたのは宇多野学区に設立して13年。設立時から学区の広報紙への寄稿や施設見学会の実施等、少しずつ地域とのつながりを深めてきた。
- 「高齢者が坂道を上れなくなっている」と宇多野社協の森奥会長から相談をいただいた。そこで、「地域に密着した施設としてもっと新たなことをしていきたいと思ったので、ぜひ手伝わしてくださいとお伝えした。」と吉永施設長は語る。



地域の春のお花見会

- 「施設として送迎の業務も行っているの、その経験を活かして運行計画を立てました。」と語る塩内さん。
- 「これがなかったら行けなかったわ」との車中での声から、私たちも地域に貢献できているなと実感しました。」と確かな手ごたえを語っていただいた。



「行きたいけど行けない」という声をなくしたい

- 「秋に開催した宇多野社会福祉大会でも、送迎をお願いし、車いすの高齢者も対応してもらいました。これから先も送迎や様々なことで相談したい。」と語る宇多野社協の森奥会長。地域と施設の連携は、これからも地域づくりの可能性を拓くものとなっている。

